

被災地の一刻も早い

復旧・復興を願い

台風19号による被災地の復興支援で、11月10日から姉妹都市・上田市（長野県）に職員2人を、17日から大崎市（宮城県）に職員1人を派遣しています。

本市と両市は、災害時相互応援協定を締結しており、両市からの応援要請に応じて実施することになりました。

派遣期間は共に2020年1月末までで、市道や河川の災害査定設計書の作成などを行っています。

本市は、被災地の一刻も早い復旧・復興を願い、支援を行います。

《問合せ》防災課 ☎23-11111



▲11月10日、職員に見送られる中、市役所防災公園から上田市に出発

文化と教育による

先端的なまちづくりで連携

11月11日、西村屋ホテル招月庭（城崎町湯島）で「文化と教育の先端自治体連合」の発足式を開催しました。

東川町（北海道）、南砺市（富山県）、奈義町（岡山県）、小豆島町（香川県）、本市の5自治体で構成し、連合会長には中貝市長を選出しました。

発足式では、各構成自治体が、非認知スキル向上のための取組みを進め、その効果測定・評価・検証を共同事業として行うことも発表しました。

《問合せ》大交流課観光文化戦略室 ☎21-9081



▲各自治体の首長と総合アドバイザーの平田オリザさん(右)

市政 ニュース

〈主な市政の動き〉

〔11月〕

- 10日・被災地・上田市への職員派遣
- 11日・文化と教育の先端自治体連合の発足式
- 12日・市議会臨時会
- 15日・仲田光成記念第19回豊岡全国かな書展（17日）
- 16日・秋季市政懇談会（豊岡、27日・出石）
- 16日・みんなでスポーツ応援キャラバン
- 17日・豊岡Uターン企業研究会（大阪市）
- 17日・被災地・大崎市への職員派遣
- 2019日本冒険フォーラム（千代田区）

〔12月〕

- 18日・台風23号メモリアル防災学習会
- 20日・豊岡エキシビション2019（千代田区）
- 24日・NHK公開収録「ベストオブクラシック」
- 29日・除雪隊発隊式
- 2日・ジェンダーギャップの解消に向けた戦略の方向性提言報告会
- 3日・五荘小学校・奈佐小学校統合方針の決定
- 4日・南三陸町長（宮城県）から感謝状の贈呈
- 7日・地域福祉フォーラム



市議会役員決定

議長に関貫さんを再選

11月12日、市議会臨時会が開催され、議会役員が決まりました(敬称略)。

▼議長 関貫久仁郎(再選)

▼副議長 松井正志

▼議会選出の監査委員 椿野仁司

各委員会の委員長(◎)、副委員長(○)は次のとおりです。

■常任委員会

▼総務委員会

◎伊藤 仁 ○奥村忠俊

▼文教民生委員会

◎西田 真 ○田中藤一郎

▼建設経済委員会

◎浅田 徹 ○芦田竹彦

▼予算決算委員会

◎松井正志 ○伊藤 仁

◎西田 真 ○浅田 徹

■特別委員会

▼議会広報広聴特別委員会

◎上田伴子 ○岡本昭治

▼人口減少対策等調査特別委員会

◎嶋崎宏之 ○足田仁司

▼防災対策調査特別委員会

◎上田倫久 ○木谷敏勝

■議会運営委員会

◎井上正治 ○木谷敏勝

《問合せ》議会事務局 ☎23-11119

まち全体のジェンダー

ギャップの解消に向けて

12月2日、本庁舎大会議室で「ジェンダーギャップ(性別による男女間の格差)解消に向けた戦略の方向性提言報告会」を開催し、上智大学名誉教授の目黒依子さんと関西学院大学客員教授の大崎麻子さんから提言を受けました。

市では、2019年度から、まずは職場におけるジェンダーギャップ解消の取り組みを進めています。今回の提言を基に、20年度には、家庭や地域などを含めたまち全体のジェンダーギャップの解消に向けた戦略をまとめます。

《問合せ》ワークイノベーション推進室 ☎21-9004



▲民間企業経営者や地域コミュニティ関係者、市職員など、110人が参加

中貝市長の徒然日記 ⑭

南三陸町の感謝状

12月4日、宮城県・南三陸町の佐藤仁町長から、豊岡市に感謝状をいただきました。

東日本大震災の発生から8年9か月。復興計画の10年の間に全ての復興事業を完遂できる見通しが立ったとして、支援団体に対し、感謝状を持って回っておられるそうです。

豊岡市は、震災以来、南三陸町に市職員を1〜3年交代で派遣してきました。今も派遣しています。

「調べてみたら、お世話になった団体だけでも3千を超えていました。とても回り切れない、ということと220に絞らせていただいて、順次訪問しています」と佐藤町長。

「文章を自分で書いたら、思いがあふれて、とてつもなく長くなってしまいました。職員が、町長、こりゃとても1枚に収まらねえ、と非情にもカットしました」

それでも、長い文面でした。文章は、「万感の思いを込めてここに感謝の意を表します」

と締めくくられています。その「万感の思いを込めて」に、胸が熱くなりました。

たくさんの方の命が失われました。防災無線で最後まで避難を呼びかけた職員も津波に流されました。どれほどつらい思い、悔しい思いをされてきたことか。

これまで毎年のように、職員派遣の感謝と継続の依頼にお越しになっていました。ほかの答えは、いつも同じでした。「もういらぬ、と言われるまで派遣し続けます」

2015年、公立病院再建。2017年3月、さんさん商店街復活。同年9月、役場庁舎再建：そのたびごとに、南三陸町の皆さんがどれほど喜ばれたことか。進んでいく復興の様子を、ぼくは泣きそうなおもいで聞いてきました。

地元ではゆっくり酒を飲むこともおできにならないだろうとお誘いし、城崎温泉でしみみと一緒に飲んだこともありました。

町民の皆さんとともに、ここまで、本当によく頑張ってくれました。